



研究会だより

発行

構造物修復工法研究会

本部・東日本支部 (大洋基礎工業(株)東京支店内)
東京都品川区南大井町五丁目二七-17
Tel 03-3529-8133 三四四

中日本支部 (大洋基礎工業(株)名古屋支店内)
名古屋市中川区柳森町一〇七
Tel 052-1304-1820
西日本支部 (大洋基礎工業(株)大阪支店内)
大阪府高槻市五領町二〇-18
Tel 072-1669-1013-1

副会長挨拶



株式会社テクノックス

執行役員 施工技術本部

副本部長 又吉 直哉

日頃より当研究会の活動にご理解、ご協力を賜わり誠にありがとうございます。長らくコロナ禍の煽りを受けまして、当研究会におきましても令和元年に設立総会を開催して以降、一昨年、昨年ともに定時総会も書面決議やWeb形式による実施を余儀なくされており、皆様とお会いできる機会がなかなか得られません。こ

ロウイルスの跳梁跋扈には本当に困ったものですが、引き続き、我々ができること(手指消毒、マスク着用、三密回避、宴会禁止)に取り組んでいきたいと思います。

さて、この研究会だより執筆の最中に、太平洋基礎工業創業者であり、当研究会の発起人でもある豊住満顧問が病氣療養中のところ、去る三月八日にご逝去されたとの連絡を受けました。奇しくも三月初旬に届いた「たいよう新聞」には、いつも通り、豊住顧問の実直な文面が掲載され、追記文では、年末年始に体調を崩したものの快方に向かっている、この経験をともに健康第一を信条とすることが謳われていました。無論、お元気になるかと思っていた矢先でした。享年八二歳、残念無念でなりません。

私が豊住顧問と初めてお会いしたのは令和元年四月、神守研究開発センターへ弊社の社長とともに挨拶に伺ったときで、僅か三年前のことです。一時間程度の会話でしたが、初対面の

印象は、今風に例えるならばビッグボス、親分肌で存在感のある方だと感じました。翌月東京で再会した際には、明るい時間帯から二人でビールを交わしながら(正直私はそれほど飲めないのですが)、楽しい雰囲気の中で談笑しました。私は調子に乗ってしまい豊住顧問のペー

スに併せて飲んでしまったので、具体的な内容は殆ど頭に残っていませんが、今では、それがきっかけで当研究会の副会長を仰せつかったのではと推察しています。

一昨年、弊社の創立五〇周年にもない記念式典を企画している段階から、幾度となく豊住顧問よりご連絡をいただきました。その方向性として昨今のコロナ禍の状況を踏まえると社員のみでの式典ならざるを得ない、とお伝えすると「招待されなくても俺は行くからな!」日程と場所が決まったら必ず知らせろ!というくらい心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

八嶋技術顧問最終講義



岐阜大学 工学部 社会基盤工学科防災コースの教授であり、当協会の技術顧問であります八嶋厚様が定年を迎えられ、「究明は必要の母」の題で三月一日岐阜大学にて最終講義をされました。「必要は究明の母」はよく聞く言葉で、必要に迫られると、おのずから究明や工夫がなされるという意図がありますが、その逆の意味なのかなとさえ、公聴させて頂きました。八嶋教授は早朝の三〇分は夜の二時間に匹敵するとのお考えを持っておられ、大学では早朝の五頃時には仕事を始め、色々考えことを始められるそうです。偉大な経営者の方々は、集中力の高まる朝を非常に大事にされており、八嶋教授もその例に漏れないどころか逸出されると思われました。「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害

がその激烈の度を増す」現在の自然災害がまさにその通りと痛感します。印象的な言葉が、「水と土砂」に克つ(かつ)、「水と土砂」を和す、そして「水と土砂」を利用する、とのこと。克てば、丁寧な維持管理が必要であること(災害に抵抗できる構造物にはメンテナンスが必要である)、今後、少子高齢化で技術者不足になる時代にこのような維持管理型が果たして良いものか・・・と疑問も持たれ、日本人は「克つ」か「和す」かどちらを選択するものかと問いかけていました。社会基盤は、「老齢化を許しても、老朽化は許すまじ」と、経年してもその機能を低下させないこと、またその維持管理には三つの鏡が必要であることをおっしゃいました。

- 一、顕微鏡(微細に足元を映す、現地の土構造物、地質、地形を詳細に映し出す)
 - 二、双眼鏡(広く見る、土構造物と異なる地質、地形の境界を映し出す)
 - 三、望遠鏡(土構造物に限らず、地質、地形の成り立ちを遠く、過去に映し出す)
- しかし、もっと大事な鏡とは、冷静かつ客観的に己を映し出す「普通の鏡」と強調されました。また、災害事例を基に法面防災十訓(旧国鉄・池田氏)を紹介されました。

現場レポート

現場概要

工期期間：令和三年一月二六日～二月二八日

工事件名：地蔵寺本堂リフォーム工事(沈下修復工事)

工事場所：愛知県名古屋市区内
工事内容：対象建物延床面積 約八六㎡
木造一階建

最大沈下量 一〇〇mm

工法 土台上げ工法

鋼管杭 平均3m 三九箇所

圧入杭 七箇所

Ra11七〇KN/箇所

モンケン落下 三三箇所

Ra11三三KN/箇所

梁補強 七箇所

基礎 増打ち二箇所

外周基礎 炭素繊維補強

現場は、名古屋城から西に約1km離れた大通りに面したお寺です。使っていなかった古いお寺をリフォームして使用する予定でしたが、建物不陸が最大一〇〇mmもあったため、修復の相談がございました。築八〇年近くの建物は、基礎も相当傷んでおり、基礎下からのジャッキアップは厳しいと判断し、基礎より上部を修正する



写真-2 モンケン打設状況

の基礎の損傷の大きいところを除去し、補強鉄筋挿入組立、型枠を設置して増打ちコンクリートを打設しました。また外周部基礎は、炭素繊維(写真-3)をコンクリート布基礎の表面に貼り付けて、せん断強度、靱性能及び耐震性を向上させました。

ジャッキアップ工法の一つである土台上げ工法とは、基礎の上にある上部躯体のみを支持してレベルを調整する手法(写真-4,5)です。持上げた基礎と土台の間の空間は、スペーサーやコンクリートなどで間詰めし、安定を図ります。また基礎と土台は、アンカーボルトで固定してあるので、そのアンカーはジャッキアップした分延長等の処置を施して固定します。通常土台上げ工法は、基礎より下が安定している前提で修繕する安価な工法です。今回は採用した趣旨が違います

が、老朽化した建物の基礎補強と併用しても可能なモデル現場として参考にして頂けたらと思います。また、工法等相談があれば、当研究会気軽に相談下さい。



写真-4,5 ジャッキアップ状況



写真-1 建物全景



写真-3 基礎炭素繊維補強

お知らせ

建設資材・工法の技術情報「けんせつ Plaza」のWEBサイトに当研究会広告掲載中



当研究会カタログ・封筒等希望あれば、ご一報ください。また、狭小地・低空頭の現場の相談も承ります。

奥田会長黄綬褒章受賞



令和三年秋の黄綬褒章に当研究会会長であります奥田克実様（三東工業社長）が受賞されました。奥田会長は、滋賀県の三東工業社長として、CLTを建築構造材と使用することを進め、雇用の創出のみならず、森林・琵琶湖の環境問題にも取り組まれておりました。また、滋賀県建設業協会の副会長として建設技術者の技術力の確保、資質の向上を図るためCPD・CPDS制度の普及のための支援も行ってあります。これらの事が認められ今回の栄誉となったそうです。

※CLTとは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着したパネルのことをいいます。

会員紹介

研究会の目的の一つであります会員同志での協業によるシナジー効果を目指し、紙面にて順会員の紹介をさせていただきます。気になる技術や相談がありましたら、各協会員へ問い合わせ願います。

会員紹介①

有限会社 K工業

代表取締役 見取 圭
本社 〒五三〇〇八二一
三重県鈴鹿市地子町三二六番地
TEL 〇五九一三六九一三六六
FAX 〇五九一三八四一四五六三
福島支店 〒九六〇一八〇六八
福島県福島市太田町一九一三〇
TEL 〇二四一五六三二七七四五
FAX 〇二四一五六三二七七四六

東京支店 〒一〇二一〇〇九三
東京千代田区平河町二二一
TEL 〇三三六二六一三三四三七
FAX 〇三三六二六一三三四三八
山口ビル2F
TEL 〇三三六二六一三三四三七
FAX 〇三三六二六一三三四三八
海藻資源研究所株式会社
本社 〒七六九一三九〇一
香川県東かがわ市引田二七六七番地三八
TEL 〇八七九一三三二二五六
FAX 〇八七九一三三二二五六
三重支店 〒五三〇一〇八二一
三重県鈴鹿市地子町三二六番地
TEL 〇五九一三六九一三二六六
FAX 〇五九一三八四一四五六三

許認可

【環境事業】
特許・二〇一九・一〇八三五二〇二一・
12・23 Japan SDGs
Innovation Challenge
for UNDP Accelerator
Labs (南アフリカ) 選定されました

【特定建設業】

三重県知事許可(特一)第三〇二三号
土木工事業 とび・土工工事業 石工事業
鋼構造物工事業 舗装工事業 塗装工事業
しゅんせつ工事業 水道施設工事業
解体工事業
【労働者派遣事業許可書 派二四一三〇〇
六三六】

【有料職業紹介事業】

営業種目
土木一式工事業 沈下修復工事業 重機大土
工事業 一般重機土工事業 構造物工事業 しゅ
んせつ工事業 舗装工事業 上下水道工事業
緑化造園工事業 法面工事業 外構工事業 電
気工事業 コンクリートに関する製造業務
請負 労働者派遣事業 有料職業紹介事
業

当社は、二〇〇二年に三重県鈴鹿市にて創業しました。

主な工事内容

護岸工事 造成工事 公共下水道工事
災害復旧工事 道路拡幅工事 太陽光発
電基礎工事・解体撤去工事・外構・開発



写真-6 ホックスカルバート



写真-7 護岸工事



写真-8 補強土壁工事

柔軟に対応できるような事業を展開していきたいと考えております。また近年では、自然環境を守るため特に海藻高密度養殖及び加工技術開発。並びに販売・国内での海藻による環境改善事業にも力を入れています。



写真-9 藻場造成移設工法

会員紹介②

株式会社 三興商会

代表取締役会長 木下 善邦
代表取締役社長 木下 善一郎
本社 〒五五〇一〇〇二二
大阪府西区立売堀二丁目五番一三三号
TEL 〇六六六五三八一三六七
FAX 〇六六六五三二一九二九〇
東京支店 〒一〇三〇一〇〇一四
東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目
二九番一三二号 和田ビル二階
TEL 〇三三六六四一五九六三
FAX 〇三三六六四一五九六一
URL: <http://www.sankosha.co.jp>

工事・足場の組立・解体
多種多様な専門分野に特化していることはもちろんそれに加え、今後、沈下修正修復工事の知識も身につけ、より一層顧客の要望に的確・柔軟に対応していきたいと考えております。

取扱商品

- 一般構造用鋼管 配管用鋼管圧力配管用鋼管
- 超軽量薄肉鋼管 土木建設工
- 管 軽量スパイラル鋼管機械構造用鋼管
- 各種板巻鋼管 特殊用途鋼管
- ステンレス鋼管 表面処理鋼管
- チタン管
- ジャッキアップ用支持架台 及び関連鋼材
- 即納在庫サイズ φ二・七、二二・九、二mm
- 切断設備 鋸切断機五台 ガス溶断四台
- 開先加工機三台
- 溶接設備 半自動溶接機六台
- 溶接資格者 SA一F五名 SA一F二名
- 品質管理者 WES二級二名 建築鉄骨製品検査技術者一名
- 土木管理技士一名

当社は大阪本社・東京支店を拠点に、高炉製品を主体に大口径鋼管・薄肉パイプ・継手類の即納体制をとり、精密切断・開先・溶接他、お客様の要望に沿った加工を自社工場・協力工場で行っております。

建築・土木を主体とした社会インフラはもとより、多岐にわたる用途に対応した商品・サービスを営業部・製造部が一体となって、お客様にご満足いただけるよう事業展開を行っております。鋼管購入の際は、是非とも弊社にお声がけ下さい。全国対応可能です。



株式会社 アイテムボックス TEL 052-798-9901	西日本支部	中日本支部	東日本支部
株式会社 KGフローテクノ TEL 03-6402-5408	株式会社 ケンシンテクノ TEL 089-976-6444	株式会社 アップルハウス TEL 052-726-5246	株式会社 江機 TEL 03-3857-9870
株式会社 三興商会 TEL 06-6538-3671	株式会社 三東工業社 TEL 077-553-1111	株式会社 グランテック TEL 0776-91-6111	有限会社 K工業 TEL 024-563-7745
三和機材株式会社 TEL 03-6891-3456	太洋基礎工業株式会社 大阪支店 TEL 072-669-0126	株式会社 サン・エンジニア TEL 0776-83-1802	太洋基礎工業株式会社 東京支店 TEL 03-5753-1291
ソーダニッカ株式会社 TEL 052-561-9421	大栄テックス株式会社 TEL 0747-32-8300	勢州建設株式会社 TEL 059-382-5577	株式会社 テノックス TEL 03-3455-7792
長野油機株式会社 TEL 045-934-2555	株式会社 南陽建設 TEL 0967-67-0024	太洋基礎工業株式会社 名古屋支店 TEL 052-362-6352	横浜ライト工業株式会社 TEL 045-355-5500
日邦電機株式会社 TEL 06-6452-1118		株式会社 タケモト TEL 0562-34-3884	
株式会社ムラーアカム TEL 0567-55-3111	賛助会員	有限会社 堀建設工業 TEL 0766-25-3319	